

保護者の皆様

知立市立知立中学校長

淵上 隆博

## 「令和4年度アンケート分析」と「令和5年度に向けて」

※ 「達成されている」、「ほぼ達成されている」を肯定的評価として、「あまり達成されていない」「達成されていない」を否定的評価と捉えての分析

※ 保護者（家庭数）： 449/580 生徒： 510/611 教師： 39/41

今年度は、保護者、生徒、教員すべてにおいてネットでの回答を行った。その結果、回答率は、紙面で行った前年よりも保護者で17%、生徒で9%ポイントが下がる結果となった。減少については、様々な理由が考えられるが、回答数が少なかったという現実を深く受け止めなければならないと考えている。

### I 確かな学力を育む教育・・・設問1～3

今年度は、新型コロナウイルス感染症が終息に至ってはいなかったが、授業参観等に関して保護者の方の御理解・御協力のもと行うことができた。また、生徒同士の話し合いや発表についても一部制限があったものの工夫をしながら取り組むことができた。

課題の質と量については、今年度も問題集を一斉に購入することはせず、授業の課題で対応した。タブレットの活用も含め、課題の質と量について校内での検討が必要と考える。保護者と教員では、適量の感覚に違いがある。よって、基礎基本の定着にこだわった検討に重きを置きたい。

ICTの活用に関しては、保護者の評価は昨年度よりも12.9ポイント高い評価となった。タブレットの持ち帰りや授業公開などの様子からICTの活用に少しずつ理解が深まっていることを感じる。

\*家庭学習の充実に向けては今後も検討していく必要がある。

\*「わかる」「できる」という実感を伴う授業をめざし、これまで以上に教員の授業力向上に努めていく必要がある。

### II 豊かな人間性を育む教育・・・設問4～7

昨年度と比べて「いじめへの対応」、「充実した学校生活」の設問に対し、ポイントが上がった。中でも「いじめへの対応」については、94.4ポイントと高い評価を今年度も得ている。今後も、教育相談や日頃の様子などから、いじめにつながる小さなトラブルを見逃さないように常にアンテナを高くし、迅速かつ適切に対応していきたい。

一方、「思いやり・優しい心」、「すすんであいさつ」の設問については、保護者、教員ともに昨年度に比べ、ポイントが下がった。道徳教育に力を入れてきた中での減少であるため、その原因をしっかりと追究する必要がある。その上で具体的な対策を考え、改善に努めていかなければならない。挨拶についても同様のことが言える。

\*生徒の活躍する場を大切にし、生徒たちの自主的な取り組みを積極的に認め、自己肯定感を高められるようにする。

\*常に生徒を見守り、寄り添うことで、タイムリーな指導を心がける必要がある。

\*地域に愛される知中生をめざし、生徒の目を校内だけでなく地域にも向けられるように、カリキュラムの工夫を行う必要がある。

\*あいさつ運動など生徒会の取り組みを学校あげてバックアップする必要がある。

### Ⅲ 健康と体力を育む教育・・・設問 8, 9

「体力づくり」の評価においては、コロナの落ち着きと部活動の活動機会増加に伴い少しずつポイントが上がっている。今後も体力向上の場と機会を増やしていきたい。

「規則正しい生活」では、感染予防のための検温や手洗い、手指消毒の徹底など、今年度も一人一人心がけて生活することができた。保護者と生徒の評価は昨年度とさほど変わりはないが、教員の評価は、下がっている。新しい生活様式に慣れ、教員の声掛けも減っているのではと感じる。

- \* 体育の授業において、補強運動などを積極的に取り入れ、体力の向上に努める。
- \* 感染状況や熱中症情報など、常に最新の情報を得るように努め、適切な対応を行う。今年度は夏休み中の部活動時の登下校にについて、徒歩通学者の希望者にも自転車での登下校を許可した。
- \* 保健だよりやSNS講習会などを利用し、基本的な生活習慣の大切さを伝えていく。

### Ⅳ きめ細やかな指導の充実・・・設問 10, 11

「チームとしての有効的な指導」については、今年度も生徒の80%以上に高評価を得ることができた。保護者も80%近くの評価を得ている。制限のある中ではあるが、再開した歌おう会（合唱コンクール）での取り組みをはじめ、様々な行事を通して多くの生徒が活躍する機会があったからではないかと考える。

生徒の個性に応じたきめ細かな指導については、生徒及び教員の評価が下がっている。生徒一人一人の個性や学習状況に応じたきめ細かな指導について、コロナ禍においてどこまで可能かなど、模索しながらの1年であったため、教員の意図する活動がしづらかったこともあったようである。また、生徒においても感染予防のため、教員との直接的な対話機会が減り、個別の支援が十分に受けられなかったと感じている生徒もいるように思われる。来年度は、国の感染対策に関わる対応の変化に注視し、生徒のそばに寄り添い対話をもとに学習面、生活面において個に応じた支援に努めたい。

- \* 教員同士が連携を図り、円滑な学年・学校運営を行っていく。
- \* ICT機器を効果的に活用し、個に応じた学びを充実させる。
- \* 生徒の学習状況や心の状態を敏感につかみ、チームとして対応していく。また、必要に応じてスクールカウンセラーや適応指導担当教員などを積極的に活用する。
- \* 国や県の感染対策に係る動向に注視し、生徒との対話を大切に個々の生徒理解に努める。

### Ⅴ 学校、家庭、地域との連携の推進・・・設問 12, 13

制限を設けてはいたが、保護者の皆様の協力を得て感染対策を取りながら、授業参観や学校行事等の参観を行うことができた。生徒たちの頑張っている姿を見ていただけたことはこの上ない喜びである。

家庭訪問や懇談会の予定などネットによる回答を実施してきた。また、PTA 総会を书面開催にし、更には学校評価もネットでの回答を実施した。学校評価の回答数が、昨年度より少なくなったことは、学校への見えない評価のように感じる。

- \* 授業参観や学校行事などの参観について可能な限り実施していけるように知恵を出し合っていく。
- \* 紙面配付とネットとの併用で、学校と保護者、地域との情報共有を充実させる。
- \* 学校だよりにおいて、生徒の活躍を発信する場合、分野等に偏りが生じないように十分配慮する。